

教員養成大学における手話および手話通訳教育の実践報告

— 「学術手話通訳に対応した専門支援者の養成」事業の取り組み —

○金澤貴之¹⁾・能美由希子¹⁾・川端伸哉²⁾

1) 群馬大学教育学部 2) 群馬大学大学教育・学生支援機構

1. はじめに：特別支援学校教員養成における手話習得の意義

自治体が制定した手話言語条例への学術機関としての貢献

- 「聴覚障害児を対象とする学校における乳幼児期からの手話環境の整備等」（群馬県手話言語条例）
- 「公立学校での手話による支援」（前橋市手話言語条例）

→教員養成大学の果たす役割

- ①学生に手話についての知識と技術を教授
- ②（特に特別支援学校教員を目指す学生に対して）教育現場で活用できる手話技術の習得

1. はじめに：日本財団助成事業「学術手話通訳に対応した専門支援者の養成」

①学生の養成

- 【1年次】手話習得
- 【2～3年次】手話通訳養成課程 **県の手話通訳者養成と連携**
- 修了後、手話通訳者全国統一試験の受験資格取得(※)
- 【4年次】手話通訳者として学内の情報保障を担う
- ろう重複障害者（盲ろう者を含む）支援技術を習得

②研修

- ・地域の手話通訳者に対する学術手話通訳の研修
- ・群馬県との連携事業

(※) 群馬県の教員採用試験において
手話通訳の資格取得者（手話通訳士・者）は加点対象

2. 本学の取り組み：手話習得・手話通訳養成 開設科目

手話習得	1年目	前期	後期
	各全15回 1コマ90分 総時間数：135時間	言語としての日本手話実践 I 言語としての日本手話 I 手話とろう文化	言語としての日本手話実践 II 言語としての日本手話 II 手話と情報アクセシビリティ
手話通訳養成	2年目	前期 日本手話と日本語の違いを学ぶ I	後期 日本手話と日本語の違いを学ぶ II
	3年目	前期 日本手話と日本語の違いを学ぶ III	後期

総時間数：45時間

※上記の単位取得後、手話通訳者統一試験受験資格を付与

2. 本学の取り組み：手話習得・手話通訳養成の特徴

□手話習得

- ・意図的な構文学習を重視、そのための教科書作成
- ・場所と教員を変えて、会話練習と文法学習

□手話通訳養成

- ・非手指動作（NMM）も含めた徹底した構文指導
- ・OJTと振り返り学習

□ねらい

- ・手話通訳資格習得の最短距離を構築
- ・地域手話通訳者養成のカリキュラム変更も視野に

2: 本学の取り組み：手話習得「手話とろう文化」「手話と情報アクセシビリティ」

手話とろう文化

手話と情報アクセシビリティ

講義

実技

ろう文化や聴覚障害のある人の情報アクセシビリティに関する講義

日本語での簡単なあいさつやコミュニケーションの実技

※手話を第一言語とするろう者が持つ文化

2: 本学の取り組み：手話習得「言語としての日本手話・日本手話実践」

言語としての日本手話（理論指導）

言語としての日本手話実践（実技指導）

A

B

隣接している教室を移動

2. 本学の取り組み：手話習得 日本手話学習のためのオリジナルテキストの作成

回数	各回のねらい
1	視覚言語である手話に触れてみよう（手話を見てみよう・手を動かしてみよう）
2	手話の音韻を知ろう・非手指動作を見てみよう
3	名称を表現してみよう・指差し表現を使ってみよう
4	自分の名前・家族を紹介しよう 非聞き手の代名詞表現を表現してみよう
5	いろいろな動作動詞を知ろう、使ってみよう
6	可能・不可能を表現してみよう
7	得意・不得意を表現してみよう
8	表現チャレンジ！：これまで学んだ内容を元に、自分のことを表現してみよう
9	さまざまな否定表現を知り使い分けてみよう①
10	さまざまな否定表現を知り使い分けてみよう②
11	時制を表す空間表現を知ろう・時制（現在進行形）を表現してみよう
12	時制（完了形・未来形）を表現してみよう
13	文末コピーを用いて受動・能動を表現してみよう
14	空間活用をして距離と位置関係を表現してみよう
15	表現チャレンジ！：これまで学んだ内容を元に、いろいろな文章を表現してみよう

「言語としての日本手話」および「言語としての日本手話実践」で使用

2. 本学の取り組み：手話通訳養成 カリキュラム構成と課題設定のポイント

- ・着実な技術習得のためのカリキュラム構成
- ・逐次通訳・翻訳作業を経てからの同時通訳
- ・学生の力を把握し、各段階に応じた指導・説明

・通訳養成の最終段階では実際の授業にて通訳実技（OJT）

・課題：週3回→GoogleDriveに提出
→「ピアノのお稽古」方式！

2. 本学の取り組み：手話通訳養成「日本手話と日本語の違いを学ぶ I」

語彙強化練習（フラッシュカード）

提出課題へのフィードバック

同時通訳

2. 本学の取り組み：手話通訳養成「日本手話と日本語の違いを学ぶ II」

ペア練習（通訳練習・通訳評価練習）

提出課題へのフィードバック

2. 本学の取り組み：手話通訳養成「日本手話と日本語の違いを学ぶ III」

OJT課題撮影（実際の授業での手話通訳撮影）

OJT課題へのフィードバック

3. おわりに

- ・大学教育として手話および手話通訳教育は、一部の大学で実践が始められた。
- ・実践を積み重ねることにより、より効果的なカリキュラムの構築や教材開発等が望まれる。
- ・特別支援学校聴覚障害領域の教員養成を担う本学が、手話および手話通訳教育を行うことで、聴覚障害児へのより良い教育環境の実現につながる。

